

第2節 総合的な環境保全行政の推進

1 奈良市環境基本条例

本市は、平成11年（1999年）3月に「奈良市環境基本条例」を制定しました。この条例は、環境の保全と創造に関する基本理念を定め、市・事業者・市民・観光客等各主体の責務を明らかにするとともに、環境の保全と創造に関する施策の基本となる事項などを定めており、環境の保全と創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、現在及び将来の市民の安全かつ健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的としています。

2 奈良市環境審議会

環境基本法第44条では、市町村は、その市町村の区域における環境の保全に関して、基本的な事項を調査審議させる等のため、その市町村の条例で定めることにより、環境保全に関し学識経験のある者を含む者で構成される審議会等を置くことができると定められています。

本市では、昭和46年（1971年）8月から奈良市公害対策審議会、平成6年（1994年）8月から奈良市環境審議会として本市の環境行政に関する基本的事項を審議しています。

3 奈良市環境基本計画

平成11年（1999年）3月に策定された「奈良市環境基本計画」は、奈良市環境基本条例第9条に基づき定めるもので、本市の総合計画を環境面から総合的、体系的に推進し、環境の保全と創造に関する各分野の施策、事業の基本となる計画です。

その後、本市は平成14年（2002年）4月に中核市となり、平成17年（2005年）4月には月ヶ瀬村・都祁村と合併して市域が拡大しました。また、急速に進む地球温暖化や生物多様性の危機等の複雑化・多様化する環境問題に対応するため、平成24年（2012年）3月に「奈良市環境基本計画（改訂版）」を策定しました。策定にあたっては、公募市民、事業者代表、各種団体の代表者等で構成される環境基本計画市民ワークショップで議論した内容を計画に反映し、市民、事業者、市（行政）が協働して取組を推進していくための計画としています。

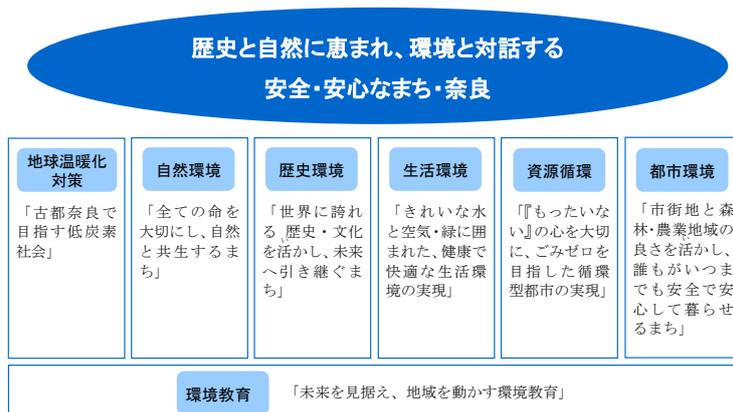
さらに、平成27年（2015年）12月に開催された気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）において新たな法的枠組みとなるパリ協定が採択される等、国際的な地球温暖化対策や国のエネルギー政策が大きく見直されている情勢の変化に対応するため、平成29年（2017年）3月に計画の中間見直しを行いました。

(1) 計画の期間

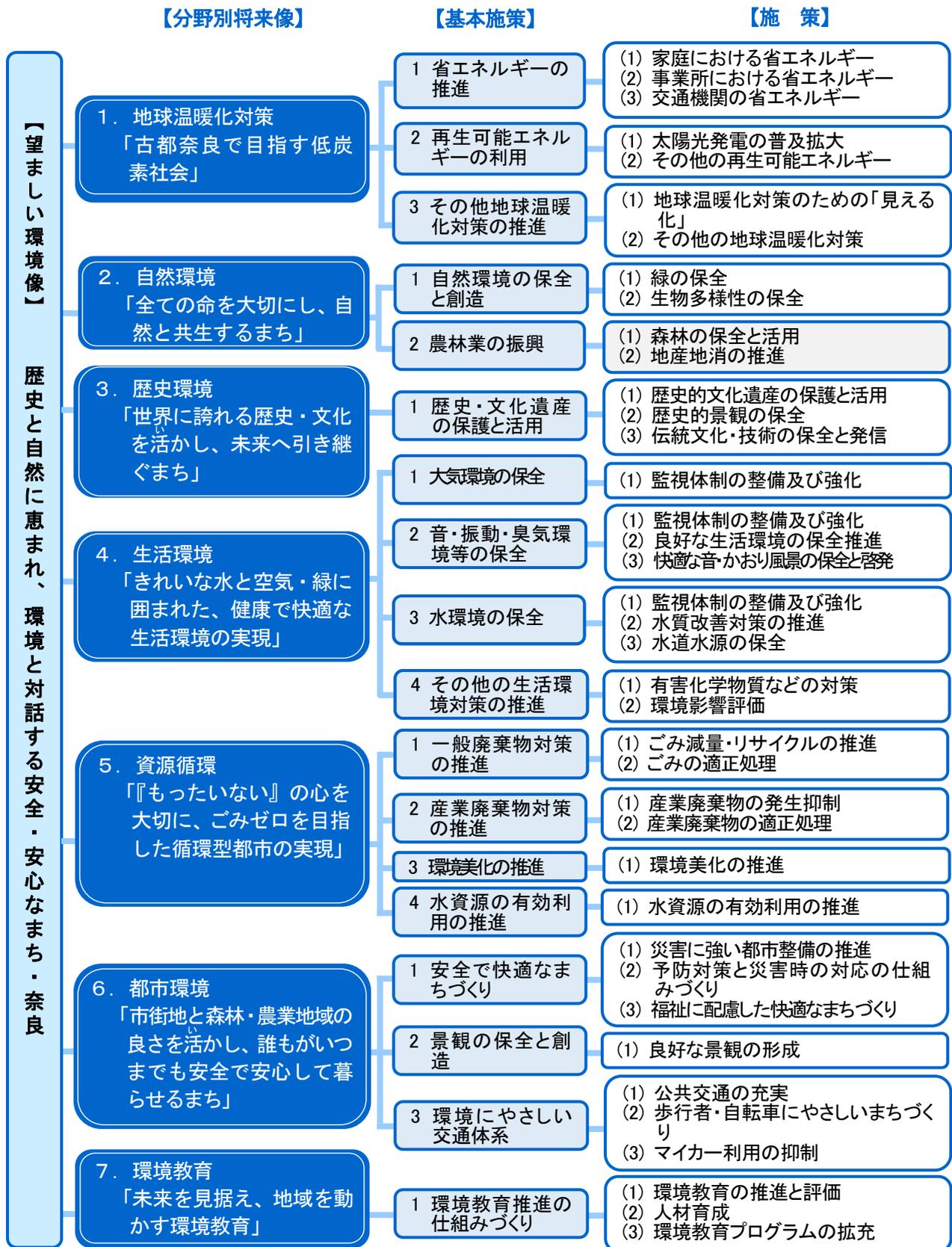
平成24年度（2012年度）から令和3年度（2021年度）までの10年間

※中間見直し後の計画期間は平成29年度（2017年度）から当初計画終了年度である令和3年度（2021年度）までの5年間としています。

(2) 望ましい環境像と分野別将来像



(3) 施策体系



(4) 計画の推進

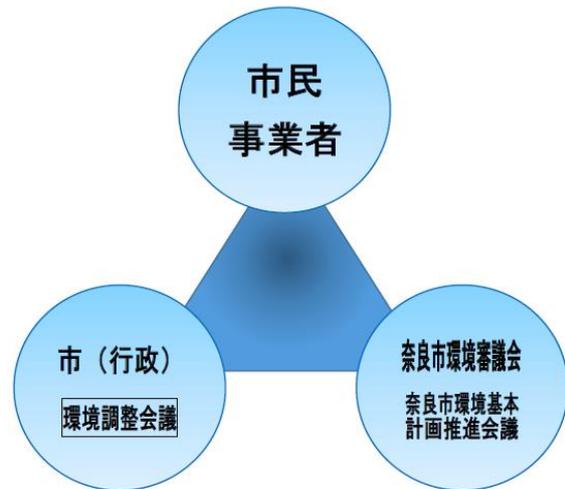
奈良市環境基本計画（改訂版）を総合的かつ計画的に推進していくために、指標を用いて施策の進捗状況を点検・評価し適切な見直しを図るとともに、市民、事業者、市（行政）が連携・協働する仕組みを形成し、推進体制を整備充実させ、計画の実効性を確保します。

・環境基本計画推進会議

環境基本計画の推進に当たっては、中心となる懇談会として環境基本計画推進会議を開催し、市民、事業者、市（行政）、奈良市環境審議会の協働による計画の進捗管理を行い、着実な推進を図ります。

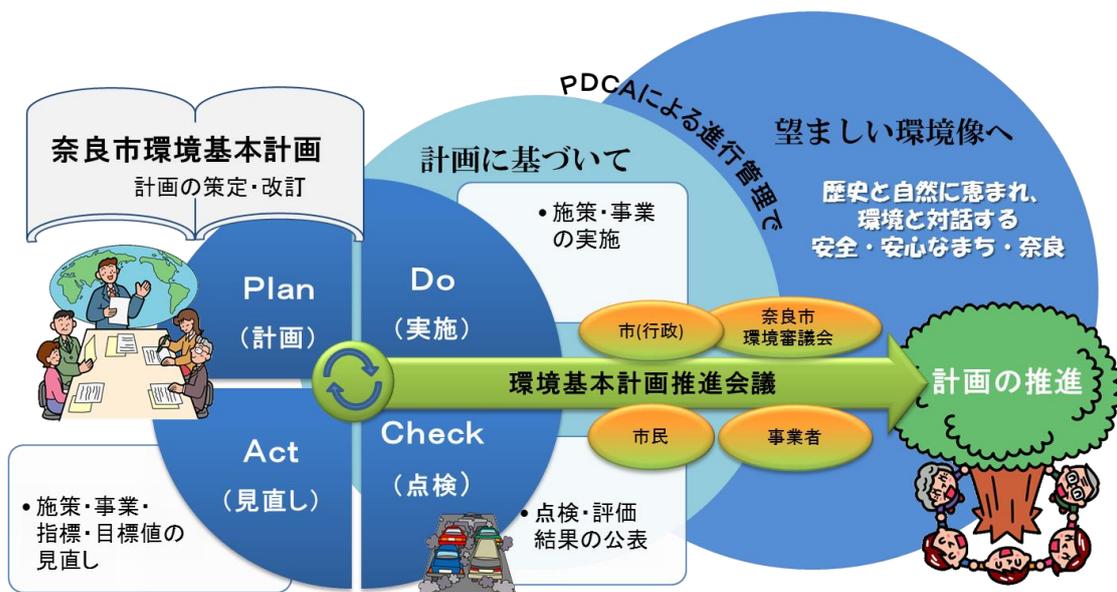
・環境調整会議

庁内の施策推進組織である環境調整会議で、庁内各担当部課の横断的な連携により環境施策の総合的な調整を図っています。



4 環境基本計画の進捗状況及びその評価

環境基本計画（改訂版）では、計画の着実な推進を図るため、PDCAサイクルによる進行管理を重要としています。そのため、分野別施策に対して参考となる指標を設けています。各指標の目標値に対する年度末現状値及び施策の進捗状況については、行政による達成度の点検・評価とともに、その自己評価結果に対する環境基本計画推進会議による意見や環境審議会による第三者的評価を併せて、総合評価とする形をとっています。環境基本計画推進会議での評価コメント結果については、各施策の実施部署にフィードバックし、必要に応じて施策、目標値等の見直し等を進めていきます。



5 分野別施策に対する指標と評価結果

(1) 評価方法

・項目評価

指標ごとに、4つの評価項目（単年度達成度、進捗率、波及効果、効率性）について評価します。

<評価基準>

評価点 項目	5点	4点	3点	2点	1点
単年度達成率	単年度目標をほぼ達成している。 (達成率85%以上)	単年度目標を75%以上達成している。	単年度目標を50%以上達成している。	単年度目標を25%以上達成している。	ほぼ未着手 (達成率25%未満)
進捗率	/	最終目標に順調に近づいている。 (最終目標達成率80%以上)	最終目標に近づいている。 (最終目標達成率70%以上)	最終目標に少し近づいている。 (最終目標達成率60%以上)	最終目標に近づいていない。 (最終目標達成率60%未満)
波及効果		環境改善に寄与し、かつ地域社会・市民・事業者などに好影響を与え、事業継続により、更なる発展が見込める。	環境改善や社会的な好影響がある程度認められ、事業継続により、今後の発展が見込める。	環境改善や社会的な好影響があまり認められないが、改善すれば事業継続の余地がある。	環境改善や社会的な好影響が認められず、事業継続による今後の発展が見込めない。
効率性		効率性が高い。	効率性は適当であると認められる。	改善の余地がある。	抜本的な見直しが必要である。

※効率性評価は、事業のやり方、進め方、成果に対して、コストが適切なものになっているか評価します。

・総合評価

4つの評価項目それぞれについて採点し、点数化された結果を基に、指標ごとの総合評価をまとめます。

総合評価	合計点数
A	13点以上（11点以上）
B	9点～12点（8点～10点）
C	6点～8点（5点～7点）
D	5点以下（4点以下）

※（ ）内の記載は、単年度達成率が評価できない場合の総合評価の基準です。

(2) 評価結果

【総括】

指標総数	31	推進会議のコメント	
総合評価	A	13	ほとんどの指標において現状維持～改善となっており、全体的には評価出来る。地球温暖化対策については現状の削減目標に甘んじることなく、市民・行政・事業者各々がさらにCOOL CHOICEを促進し、シェアリング社会を目指すライフスタイルへ転換することが重要である。また、春日山原始林を始めとした森林の保全についても注視していく必要がある。評価方法については定量的な目標値を設定することで年度PDCAが実施されていることから有効な手段であると考え、指標によっては定量的に評価できないものもあるため、今後より良い評価方法を検討していく必要がある。
	B	18	
	C	-	
	D	-	

1. 地球温暖化対策

【省エネルギーの推進】

指標	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標値 (令和12年度)	担当	関連ページ
市域の温室効果ガス 排出量(千t-CO ₂)	1,869	1,911	1,709	1,381	環境政策課	19～23
2013年度比削減率(%)	5.3	3.2	13.4	30		
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
5	1	3	3			
総合評価	前年度からの進捗			補助制度の実施やCOOL CHOICE普及啓発などCO ₂ 排出量削減のための施策を先進的に推進している。シェアリング自転車を始めとしたライフサイクルの転換を目指して、今後もハード・ソフト面での啓発活動や支援拡充を期待したい。		
B						

指標	平成29年度	平成30年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
奈良市の事務及び事業 における温室効果ガス 排出量(t-CO ₂)	44,235 (49,371)	— (42,167)	44,200	環境政策課	24～27
実績について…平成29年度は、奈良市地球温暖化対策庁内実行計画(第3次)に基づき、排出係数を平成17年度[0.358kg-CO ₂ /kWh]で固定して計算しています。 ※()内は当該年度の排出係数(電気)を使用した場合[変動係数]の数値					
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント	
4	4	3	3		
総合評価	前年度からの進捗		市が率先し温室効果ガス排出量削減に積極的に取り組む行動は、市民や事業者への省エネ・節電意識向上に繋がる。今後も行政が先導して省エネルギーを促進し、市民の見本となるような地道で継続した削減取り組みを期待したい。		
A					

指標	平成29年度	平成30年度	目標値(累計)	担当	関連ページ
LED街路灯の導入(灯) ※要望工事、修繕、引継ぎを除く。(NEXT4事業のみ)	36,812 (単年度 9,512)	515 (道路照明灯)	街路灯 38,000 (平成29年度) 道路照明灯 647 (令和元年度)	道路維持課	30
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント	
5	4	4	4		
総合評価	前年度からの進捗		積極的に街路灯のLED化を進めたことで平成29年度にほぼ目標を達成されたことは高く評価できる。今後は、道路照明灯のLED化について、調査結果を基に計画的に進めてもらいたい。		
A					

【再生可能エネルギーの利用】

指標		平成29年度	平成30年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
家庭用太陽光発電の設置割合(%)		10.4 (7,400戸/市内持ち家一戸建て総数71,030戸)	11.1 (7,888戸/市内持ち家一戸建て総数71,030戸)	15.0	環境政策課	30
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
4	2	3	3			
総合評価		前年度からの進捗				
B		 家庭・業務部門において温室効果ガス削減につながる項目であり、毎年様々な補助制度等を展開していることは評価できる。FIT制度終了に伴う2019年問題やソーラーパネルの廃棄問題についてNPO等と連携するなどして情報提供を行うとともに、蓄電池の設置等による自家消費でのメリットをPRするなど積極的推進策の検討が重要である。				

2. 自然環境

【農林業の振興】

指標		平成29年度	平成30年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
人工林における間伐の施業面積(ha)		140.8	136.1	200	農政課	-
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
4	1	3	3			
総合評価		前年度からの進捗				
B		 森林の持つCO2吸収効果は地球温暖化対策と同時に環境保全機能を高める極めて有効な手段である。今年度より譲与される森林環境譲与税も有効に活用し、木材利用促進につながることを期待する。				

指標		平成29年度	平成30年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
市民ふれあい交流事業(ミニ直売所)(箇所)		6	7	10	農政課	42
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
4	1	3	2			
総合評価		前年度からの進捗				
B		 地産地消の市民の意識・必要度は年々向上しており、安全安心・運輸エネルギーの削減にもつながる直売所の充実は不可欠である。今後は補助事業だけでなく、出張販売ができる機会の創出を図り、更なる拡大を期待する。				

指標		平成29年度	平成30年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
農業地域と市街地との交流参加者数(人)		53	79	100	都庁行政センター 地域振興課	41
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
5	1	3	3			
総合評価		前年度からの進捗				
B		 農業地域と市街地との交流活性化に寄与するとともに、若者の農村回帰にもつながる。今後も、参加者ニーズを知り地域の魅力を発信していくため、適時、事業内容の見直しをしながら農業体験を行っていくことに期待したい。				

指標				平成29年度	平成30年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
奈良県産学校給食食材地産地消費率(%)				36.23	43.05	50	保健給食課	42
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント				
5	2	3	3					
総合評価		前年度からの進捗		奈良県産学校給食食材地産地消費率の増加により、子どもの頃から奈良産品を味わう機会が増え、郷土愛を育むことにつながる。地元の地産地消費食材利用は食の安全安心に繋がり農業振興にも大きく寄与することから、食材確保などの課題はあるが、環境教育の目玉として食育を推進し、「古都ならの日」の更なる積極的展開を期待したい。				
A								

3. 歴史環境

【歴史・文化遺産の保護と活用】

指標				平成29年度	平成30年度	目標値(累計) (令和3年度)	担当	関連ページ
奈良町(旧市街地)における伝統的建造物の保存整備事業件数(件)				50 (単年度 7)	57 (単年度 7)	100	奈良町にぎわい課	44~48
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント				
5	1	3	2					
総合評価		前年度からの進捗		歴史的建造物の価値や修理理念をわかりやすくまとめた資料を所有者に提示し、指導することで、修理事業の質の担保に努めているという努力は大変評価できる。今後、景観保全の手本となる修景物件を増やせるよう期待したい。				
B								

指標				平成29年度	平成30年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
なら工芸館入館者数(人)				47,007	47,198	65,000	産業政策課	-
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント				
5	1	3	3					
総合評価		前年度からの進捗		インバウンド対策等を実施し、外国人観光客も含めた集客活動に改善努力の傾向が見られる。今後も、類似施設との連携強化を継続し、新たなイベント企画や、SNS等の活用を含めた情報発信や広報の見直し検討などを行うことで、更なる集客アップにつながることを期待したい。				
B								

指標				平成29年度	平成30年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
奈良伝統工芸後継者育成研修修了者数(人)				8	11	14	産業政策課	-
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント				
5	3	3	3					
総合評価		前年度からの進捗		なら工芸の後継者を着実に育てていることに関して評価できる。今後、研修終了後に持続的に仕事ができる環境整備を行うとともに、作品を身近に感じられる工夫により若者の関心喚起につながるよう期待する。				
A								

4. 生活環境

【大気環境の保全】

指標				平成29年度	平成30年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
光化学オキシダント環境基準の達成率(%)				88	91	環境基準の達成率向上を目指す	保健・環境検査課	65～79
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント				
5	1	2	3	自動車の排ガスのみならず近隣や大陸からの越境汚染の影響もあり、環境基準の100%達成は極めて難しいとは思いますが、引き続き環境基準の達成率向上を図るべく、国・県・近隣自治体と連携した広域的・長期的対策を継続してほしい。				
総合評価			前年度からの進捗					
B								

【音・振動・臭気環境等の保全】

指標				平成29年度	平成30年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
自動車騒音・環境騒音の環境基準達成率(%)				100	100	100%を維持する	保健・環境検査課	80～89
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント				
5	4	3	3	毎年全地点での環境基準達成は大いに評価できる。事前予防面からも立入検査は重要であり、今後も地道な調査及び監視指導を継続し、環境基準達成率100%を維持してほしい。				
総合評価			前年度からの進捗					
A								

【水環境の保全】

指標				平成29年度	平成30年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
市内河川のBOD環境基準達成率(%)				100	100	100%を維持する	保健・環境検査課	90～96
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント				
5	4	4	4	豊かな自然環境を誇る奈良市において、清流はイメージでもありシンボルともいえる。今後も環境基準達成率100%を維持すべく、監視体制を継続するとともに、「市民が親しみやすいきれいな川」になるように、市民や事業者に対する啓発活動を引き続き行っていただきたい。				
総合評価			前年度からの進捗					
A								

【その他の生活環境対策の推進】

指標				平成29年度	平成30年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
ダイオキシン類対策特別措置法に基づく特定施設の立入調査(%)				累計30 (単年度 30)	累計60 (単年度 30)	累計100 (平成29年度から3～4年で全事業場を立入調査)	保健・環境検査課	105～106
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント				
5	4	3	3	目標どおりの成果を上げていることが評価できる。立入調査を行うことにより、事業者に対して設備の適正な維持管理及び法令順守の意識付けが期待でき、事前予防の面からも重要であり継続実施してほしい。				
総合評価			前年度からの進捗					
A								

指標				平成29年度	平成30年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
事業者によるダイオキシン類測定の実施率(%)				80 (10事業場のうち8事業場)	100 (7事業場のうち7事業場)	100	保健・環境 検査課	105～106
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント				
5	4	3	3	<p>全事業場で測定が実施されたことは評価できる。ダイオキシン類の発生監視は地域住民にとって極めて重要であることから、各事業場の状況に応じた指導を継続して実施していただきたい。</p>				
総合評価		前年度からの進捗						
A								

5. 資源循環

【一般廃棄物対策の推進】

指標				平成29年度	平成30年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
ごみ搬入量 (再生資源搬入量を除く。)(t)				90,615	89,475	91,000	廃棄物 対策課	31～36
家庭系ごみ搬入量(t)				56,472	55,784	53,700		
事業系ごみ搬入量(t)				34,143	33,691	37,300		
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント				
5	4	4	3	<p>確実に家庭系・事業系とも減少していることは評価できる。家庭系ごみについては最終目標値達成に向けてもう一步の努力が必要であり、特に食品ロスや使い捨てプラスチック削減などの世界的な課題に対する啓発等の取組を期待する。</p>				
総合評価		前年度からの進捗						
A								

【産業廃棄物対策の推進】

指標				平成28年度	平成29年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
産業廃棄物の最終処分率(%)				0.7	0.8	0.5	廃棄物 対策課	114
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント				
3	2	2	2	<p>社会構造の変化に伴い、人口減少による空き家増加などにより廃棄物を取り巻く課題は大きい。多量排出事業者に対して立入調査を継続して実施するとともに、国レベルでの対策も訴求していく必要はある。</p>				
総合評価		前年度からの進捗						
B								

指標				平成29年度	平成30年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
不適正処理(不法投棄、 野外焼却等)件数のパト ロール総箇所数に対する 割合(%)				7	7	2	廃棄物 対策課	114
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント				
2	2	3	3	<p>日常的な監視パトロールの実施、不法投棄は犯罪であることの広報及び県や警察、市民(自治会等)と連携した情報共有により、不法投棄や野外焼却を未然に防止し最小限に止めることを期待したい。</p>				
総合評価		前年度からの進捗						
B								

【環境美化の推進】

指標		平成29年度	平成30年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
不法投棄警告センサー設置箇所数(箇所)		23	23	28	まち美化推進課	114
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
5	1	2	2	防止センサーから監視カメラの設置に切り替えたことは、実態に合わせた効果的な施策変更で評価できる。今後、監視カメラの整備を行うとともに、悪質な不法投棄をきちんと摘発して不法投棄ゼロを目指して推進してほしい。		
総合評価		前年度からの進捗				
B						

指標		平成29年度	平30年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
アダプトプログラム活動回数(回)		2,108	2,238	2,100	協働推進課	50
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
5	4	4	3	奈良市ポイント付与については10年以上活動に従事している人だけでなく、新たに活動に参加される方にもインセンティブがあるような仕組みを構築し、若者が参加しやすい雰囲気を作ることが重要である。		
総合評価		前年度からの進捗				
A						

【水資源の有効利用の推進】

指標		平成29年度	平成30年度	目標値(累計) (令和3年度)	担当	関連ページ
雨水タンク設置補助件数(件)		638 (単年度 56)	698 (単年度 60)	1,000	環境政策課	28
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
3	1	3	2	省エネ・省資源対策として市民が身近にできる取組であるが年々減少していることが懸念される。令和元年度から環境ポイント制度に移行したことから、今後設置者が増えることを期待したい。		
総合評価		前年度からの進捗				
B						

6. 都市環境

【安全で快適なまちづくり】

指標		平成29年度	平成30年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
住宅の耐震化率(%)		83.9	84.6	95	建築指導課	-
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
5	1	2	2	各耐震補助事業の募集件数まで達しないのが現状であることは、大変残念である。耐震化の必要性・重要性・効果等の普及・啓発が不可欠であり、耐震化実施を促す負担軽減を含めた制度の工夫やPRを継続して実施することが必要である。		
総合評価		前年度からの進捗				
B						

指標		平成29年度	平成30年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
耐震性貯水槽の設置数 (基)		43	43	47	消防局 消防課	-
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント		
5	1	3	3	大規模災害に備えた耐震性貯水槽の整備は必要不可欠である。国庫補助等の活用を視野に入れ、水利不便地への計画的な設置を図っていただきたい。		
総合評価		前年度からの進捗				
B						

指標		平成29年度	平成30年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
自主防災防犯組織結成率(%)		100	100	100	危機管理課	-
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント		
5	4	3	3	目標値の早期達成は大きく評価できる。地域によっては高齢化による影響もあり、組織の実効性・継続性について懸念されるが、引き続き、行政と自治会・自治連合会等との更なる地域連携強化により防災防犯対策活動の支援が促進されることを期待する。		
総合評価		前年度からの進捗				
A						

指標		平成29年度	平成30年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
応急手当受講者数(%)		21.7	22.2	25	消防局 救急課	-
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント		
5	1	2	2	高齢化が進み救急件数も増加傾向にあることから、応急手当の必要性和重要性について広報・啓発を行い、市民の自助意識を促進するとともに、あらゆる機会を見つけて講習を行い、受講者数を増やしていただきたい。		
総合評価		前年度からの進捗				
B						

【景観の保全と創造】

指標		平成29年度	平成30年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
市民1人当たりの都市 公園面積(m ² /人)		6.6	6.6	6.7	公園緑地課	48
大規模公園を含む場合 (m ² /人)		24.2	24.4	21.2		
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント		
-	4	3	1	少子高齢化が進む中、安全性・防災性を考慮した既存公園の再整備が求められる。今後、地域と調整を図りながら、公園のニューアル・再整備を具体的にどのように行うのか、計画づくりを期待する。		
総合評価		前年度からの進捗				
B						

指標		平成29年度	平成30年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
グリーンサポート制度による公園管理率(%)		31	33	40	協働推進課	48
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
5	2	4	3			
総合評価		前年度からの進捗				
A		 市民の参加促進を目的とした表彰制度・ポイント制度への着眼点は大きく評価できる。今後、多様な世代の市民参加を促すべく、学校の活動のひとつに取り入れてもらう等、新しい団体に働きかけてみることも一つの方策だと思われる。				

【環境にやさしい交通体系】

指標		平成29年度	平成30年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
パークアンドサイクルライドの利用者数(人)		3,012	3,876	3,200	交通政策課	39
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
5	4	3	3			
総合評価		前年度からの進捗				
A		 目標値を早期に達成しており、認知度は極めて高いと考える。渋滞緩和や地球温暖化防止に効果的であり、観光資源の多い奈良市で更にPRすることで環境都市ブランド向上にも貢献できる。シェアリング自転車等との連携を図り、県や観光部門、社寺との連携拡充も行いながら、更なる積極促進を期待する。				

7. 環境教育

【環境教育推進の仕組みづくり】

指標		平成29年度	平成30年度	目標値 (令和3年度)	担当	関連ページ
学校園での環境出前講座開催数(講座)		122	128	150	環境政策課	52
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
5	1	3	3			
総合評価		前年度からの進捗				
B		 出前講座の申込は一定数あり、全小学3年生での「ECOキッズ! ならの子ども」は一歩進んだ取組として高く評価できる。特に子どもたちへの環境教育は重要であることから、今後さらに他学年への拡大や正規カリキュラムへの組み入れ等の進展に期待したい。				

指標		平成29年度	平成30年度	目標値 (令和2年度)	担当	関連ページ
市営青少年野外体験施設の利用者数(人)		12,497	11,888	12,200	生涯学習課	-
単年度達成率	進捗率	波及効果	効率性	推進会議のコメント		
5	1	3	3			
総合評価		前年度からの進捗				
B		 青少年の健全育成のためにも自然を経験できる貴重な施設であるため、継続して運営いただきたい。今後、利用者の分析とともに新規利用者の獲得に向け、対象者を高齢者まで拡大するなど、年齢層を超えたさらに魅力的な事業の実施を期待したい。				